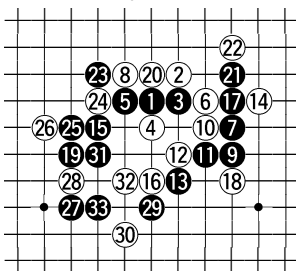


雲月・雨月桂馬挟みの研究(8)

九段 河村典彦

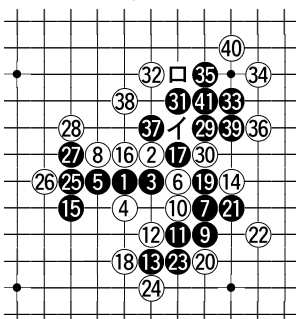
第64図



【第64図】前回の続き。黒15の妙手に白16、18と止める防ぎに黒19と引き、白20を逆止めした局面から調べてみよう。

ここで黒21が先手なのが心強く、黒23、白24の交換に黒25と気持ちよく止められる。白26の止めなら、黒27と飛んで、黒29、31、33で華麗に決める。白に四三ができるようだが、四三を打つとノリ手で逆に黒勝ちになっていることを確かめてもらいたい。

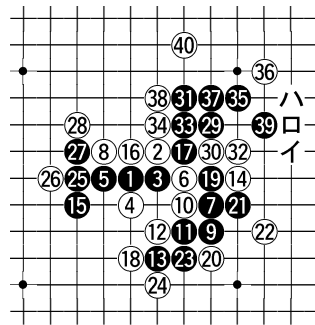
第65図



【第65図】白16と、先に三で止めておく手も考えられる。黒17と止め、白18、20には、なかなか引き順が難しいが追い勝ちがある。黒21に黒23と引くのが妙手で、後の展開でもわかる通り剣先を2回使おうという狙いだ。

黒31とミセるのが常道で、白32の止めなら黒35ともう一度剣先を利用することができる。黒41後イロまでだが、途中の黒25、27は白のノリ手を切る手なので忘れないように。

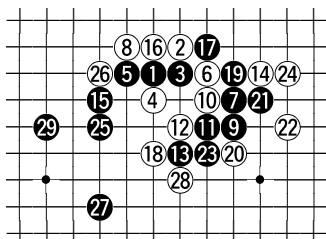
第66図



【第66図】白32を焦点に止める手ももちろん強く、これで止まれば言うことはない。黒33がいつもの感があるミセ手で、後の展開を見越している。黒35、37と引いた後で、黒39が味わいたい絶妙の一手だ。白40と浮かして止めても以下イロハだし、白に止めても四追いがある。

なお、白20で30の止めも強いが、黒は22と飛び出して下辺で勝ちがある。少々手間がかかるので並べて確認されることをお勧めする。

第67図

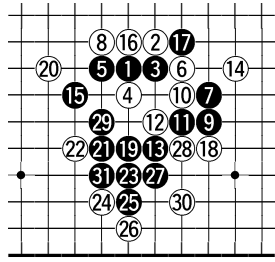


【第67図】前図まで黒に上辺に展開されたので、白は24と止めて上辺への進出を止める。こうなると黒は当然下辺に向かうのだが、一本黒25と打った様子を聞く手が憎い手になる。白は四を利かして26点を四々にしておきたいのだが、それを打つと黒に四追いが残る。白は泣く泣く26と止めるしかない。

こうしておけば、黒27と剣先を止める手が黒に新たな剣先を生むことになる。黒29とさらに浮かし止めをすれば、これが含み手となっており、もう白は止める気にならないうら。

【第68図】白18の変化。白18と単純に止めておく手ももちろん強い。

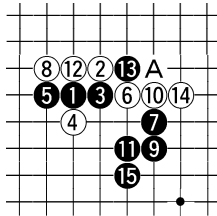
第68図



交換に黒は19に打つことになる。同時に四三のミセ手にもなっている。白20と焦点を止めるが、黒21と横に引けるのが大きく、以下黒23、25、27と狭い所を引いて行って黒31までの四追いととなる。

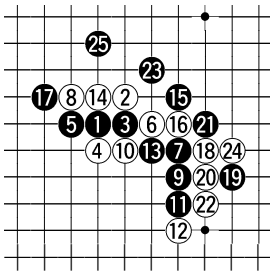
その他、白18を23に止める手は黒18と引いて良いし、白20に止める手も同様に黒18に引いて良い。

第69図



【第69図】白10の変化。白10は黒9と打たれたからには強そうに見えるが、黒11と組めるので、急所ではない。白12は一本利くが、白14と止めても黒15とさらに組まれて白は手が出ない。白14をどこに止めても五十歩百歩で、いずれも黒に好きなように組まれてしまう。

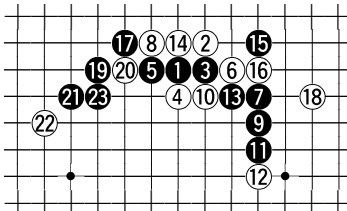
第70図



【第70図】もう一つ別の白10を調べてみよう。白10はそっぽの手のようだが、案外強い。黒11とまっすぐ下に引き、黒13とさらに引いて白14の時に黒15と四伸びを利かせてから黒17に止めておく。

ここで白はいろいろな場所を止める必要があるが、もちろん1つしか止められない。白18はその候補の一つで、

第71図



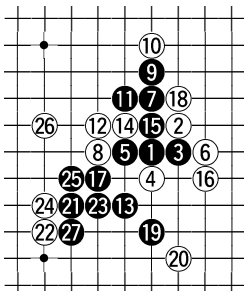
黒19と止めておき、左右で勝ちを狙う。白20、22なら黒23から25と軽く展開するのが好着想となる。

【第71図】白18の変化。白18はふんわりとした受けで、こちらはこの一手で踏ん張ろうという狙いだ。なので黒は19から23まで組んでおく。これで左辺は広いので何とかなるだろう。

以上、70図以上にわたって解説してきた。黒7の叩きでほぼ黒勝ちと言えるだろう。多少不明な部分もあったが、急所の場所や打ち方を生かせば何とかなる。

さて、実戦の対策としてはこの7の手を打てばいいのだが、研究として定石と言われる黒7の手も調べてみよう。これもほぼ黒勝ちで、実戦ではこちらの方が打ちやすいだろう。

第72図



【第72図】黒7は以前はここが常識だった。実戦的にはかなり黒有利だと思いが、白の防ぎも厄介なものが多い。まずはこの白8から調べてみよう。

黒9と上に突き出すのがうまい手。対して白10と止めるのは、黒11と打って黒勝ちとなる。白12の止めで三々が絡んで勝てないようだが、黒13と打つのが知らないで打てない一手。白14は当然だが、黒15と引いて上下どちらに止めても黒勝

ちとなる。